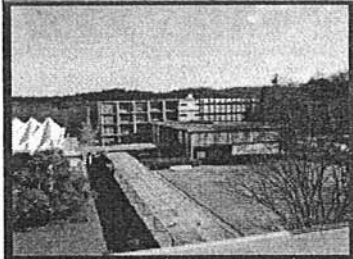


音楽学部棟の状況

3. 音楽学部棟



「芸術大学における文化的建築物保存・活手法」建物概況調査より(平成21年3月)

1. 建物規模	建築面積	延床面積	各階面積	階数	高さ
	960.91㎡	2,003.52㎡	4F 292.00㎡ 3F 292.00㎡ 2F 614.94㎡ 1F 804.58㎡	地上4階	13.470m
2. 構造形式	主体構造		基礎形式	屋根	
	RCラーメン構造・壁式構造		独立基礎・地中梁	RCの上塗膜防水	
3. 建物履歴	竣工年	増改築履歴	修繕歴	耐震診断	最小ls値
	S40年(1965)	無し	別紙参照	H13	0.48
4. 破損・劣化状況	外部仕上	屋根：トップコートに劣化有。外壁：3階床スラブ・パラペット先端：鉄筋露出。南北デザインタイル：下地モルタル共全面的な浮き上がり有。建具：開閉困難			
	内部仕上	天井：湿気による剥離・浮き等多数存在。壁：モルタルの浮き、汚れ。床：リノリウムのスキ・めくれ多数有。			
5. 機能	空間的不足	演奏形態の変化(アンサンブル、オペラなど)に対応した部屋が不足しており、現在の音楽教育に必要とされる新しい授業に対応できない。			
	使い勝手	外部の音や隣室の音が聞こえるなど、防音・遮音が不十分である。個人の練習スペースが不足しており、廊下で練習せざるを得ないなど、学生の十分な練習環境がない。			
	バリアフリー対応	便所内に段差。車いす使用者用便所なし。エレベーターの設置なし。			
	その他	改修の際は、3階屋根スラブ、2階床スラブの耐震・遮音対策を考慮。			

問題② 部屋の面積・数

【愛知芸大の各部屋の面積・部屋数】

用途	面積	部屋数	面積計
練習室	9㎡	45室	405㎡
	18㎡	1室	18㎡
	21㎡	1室	21㎡
	27㎡	3室	81㎡
	計	50室	525㎡
レッスン室	18-28㎡	45室	—

【東京芸大の各部屋の面積・部屋数】

用途	面積	部屋数	面積計
練習室	8㎡	38室	304㎡
	9-19㎡	19室	254㎡
	20㎡	34室	680㎡
	21-39㎡	18室	257㎡
	40㎡	9室	360㎡
	41-148㎡	8室	725㎡
計	117室	2,580㎡	
レッスン室	20-101㎡	77室	—

【練習室の状況】

区分	収容定員	総面積	面積/名
開学当初(S41)	280名	405㎡	1.45㎡/名
現在(H22)	400名	525㎡	1.31㎡/名

《参考》

東京芸大	948名	2,580㎡	2.72㎡/名
------	------	--------	---------

※ 東京芸大音楽学部の収容定員は次のとおり。

作曲科	60名	指揮科	8名	楽理科	92名
声乐科	216名	邦楽科	100名	音楽環境創造科	80名
器楽科(鍵盤、弦管打、古楽)		392名			

- 1 収容定員の増加により、開学当初に比べ学生一人当たりの練習室面積・部屋数が減少。
- 2 練習室、レッスン室の数が少なく、面積も狭い。
- 3 授業や練習のための部屋のやりくりが難しい。

問題③ 天井の高さ

【愛知芸大の状況】

場所	用途	階高	天井高
2階	レッスン室	3.060m	2.430m
3階	レッスン室	3.060m	2.430m
4階	練習室	2.880m	2.400m

※ 1階は玄関、楽器庫等

【東京芸大の状況】

建物	場所	用途	天井高		備考
			改修前	改修後	
3号館	1階	研究室	3.200m	3.200m	
4号館	3階	室内楽室	2.710m	2.450m	床面防音、可動式防音壁設置
4号館	4階	合奏室	2.710m	2.450m	床面防音、三重窓の設置

※ 3号館はS29竣工、H16に改修工事。4号館はS52竣工、H21に改修工事

《改修の問題点》

- 1 床面防音にあたっては、0.300m程度が必要。
- 2 天井に圧迫され、空間へ広がる自分の音をイメージできなくなる。

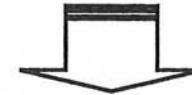
《参考》

愛知芸大で同様の改修を行なった場合の天井高は次のとおり。

	改修前	改修後
レッスン室	2.430m	⇒ 2.130m
練習室	2.400m	⇒ 2.100m

※ 17歳の平均身長 男性:1.708m、女性:1.579m(「平成21年度学校保健統計調査」より)

Vn(バイオリン)の弓長:約0.740m



- 練習室やレッスン室の遮音性能はほとんどない。
- 練習室の数や一人当たりの面積が少なく、十分な練習ができない。
- 建物の壁を撤去して部屋面積を広げることは、練習室やレッスン室の部屋数が減るので、適切ではない。
- 天井高を変更するような防音改修は空間を著しく圧迫するので、演奏することが不可能になる。

現在の音楽学部棟は、芸術家を養成するために求められる教育環境を満たしておらず、改修も困難であるため、新たな建物を整備する必要がある。

問題① 遮音

【音響性能測定調査(H20.8)の結果(抜粋)】

用途	隣接	対面	下から上	上から下	測定場所
練習室	D-35	D-40	D-40	—	4階
レッスン室	D-45	D-55	D-35	D-35	3階

※ D値は遮音等級、数値が大きいほど遮音性能が高いことを示す。

- 1 練習室やレッスン室において、特に上下に接する部屋の遮音性が低い。
- 2 木製の扉や扉のゴムが劣化しているものは、本来の遮音性能がない。
- 3 東京芸大の練習室は隣接でD-65~75、下から上でD-65~70
- 4 ほとんど聞こえない程度にするには、D-60以上が必要(日本建築学会編「建築物の遮音性能基準と設計指針」参照)